

鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会

NEWS LETTER

# Documentation No.14

## ドキュメンテーション



世新大学の研修生の歓迎パーティー

### ■台湾・世新大学の大学院生がドキュメンテーション学科で研修

鶴見大学では、昨年（2011年）に国際交流協定を世新大学との間で締結しました。今回、世新大学大学院生がドキュメンテーション学科で研修を行うことになったのも、2大学間の協定に基づいたものです。

鶴見大学にこの夏来学したのは、世新大学情報コミュニケーション専攻の修士課程大学院生5名（男子3名、女子2名）で、7月1日から15日までの2週間にわたり、学内および学外での研修を行いました。

世新大学の5名の大学院生は本学のゲストハウス（鶴見区東寺尾）に宿泊し、大学まで毎日通いました。研修初日（7月2日）の午前中には、ドキュメンテーション学科主任原田智子教授に伴われ、木村清孝学長、前田伸子副学長を訪問し、親しく懇談する機会がありました。また、夕刻には、大学食堂奥の特別室において、ドキュメンテーション学科の学生を中心に歓迎パーティーが開催されました。はじめに国際交流センター長である前田副学長から、研修に励んで、本学の学生との交流も深めてほしいとの言葉をいただきました。その後、原田教授の乾杯の音頭で会は始まり、世新大学大学院生と本学の学生との活発な意見交換など交流が深められました。

最初の1週間は、1年生の図書館概論、3年生のドキュメント処理各論Ⅱ、3・4年生の古写本演習、そして卒業論文演習など多くの授業に参加しました。研修生には

自己紹介や大学院での授業や研究内容の説明をしてもらい、本学科の学生は、現在取り組んでいる授業のテーマや卒業論文の内容を英語で紹介しました。また、図書館では、図書館ユーザーサービス体験、日本の大学図書館事情の講義、図書館カタログ体験などの研修が2日間にわたり行われました。

その他、総持寺で催された鶴見大学関係の物故者を慰霊する「精霊祭」にも参加したり、東京ビッグサイトでの第19回東京国際ブックフェアを見学したりしました。

2週目は、学科教員の引率で、横浜市立図書館、国立国会図書館、社団法人温故学会塙保己一史料館、慶應義塾大学図書館及び斯道文庫、紀伊國屋書店などを訪問しました。慶應義塾大学では図書館情報学専攻大学院生との交流も行われ、塙保己一史料館では江戸時代の版本の版木摺りを体験しました。

研修の最終日となった7月14日（土）には、ドキュメンテーション学会総会と交流会に参加して、学科の学生との交流が図られました。

来年3月には、本学科の学生がインターシップ生として世新大学を訪れることになっています。

ドキュメンテーション学科

長塚 隆 Takashi Nagatsuka



木村学長、前田副学長と



歓迎パーティーにて



ドキュメンテーション学科の学生と



渋谷ハチ公前にて

#### ✿ リン チェンミン：林 辰明 (左上写真後列右)

来日の前に想像したより、研修を通じて、様々な体験ができてよかったです。初日のウエルカムパーティ（歓迎会）で、鶴見大学の学生は大変フレンドリーで多くの友人がすぐにできました。休日には鶴見大学の学生が秋葉原やスカイツリーを案内してくれ、様々な経験が出来たことに感謝しています。学科の先生の引率で、多くの場所を見学し、体験でき、日本の文化や状況を知ることができ、得ることが多くありました。

日本は町が綺麗で、人々も大変親切でした。日本では、昨年の大震災の影響が続いており、電力の節減に努めていることがよくわかりました。

今回の経験を通じて、もう一度、日本を訪問したいと思うようになりました。また、ぜひ、みなさんが台湾の世新大学を訪問して頂けることを期待しています。

#### ✿ チェン ユーシー：徐 乾祐 (同後列左)

鶴見大学の授業で、日本の学生と学べて大変良い経験になりました。

また、街の自動販売機の中には、購入する人を認識して、音声で対話する形式のものがあり、実際に体験することが出来、自分の研究テーマと関連が深く大変参考になりました。

#### ✿ ジョン ユーシャン：鍾 玉珊 (同前列右)

日本の人たちと様々な話が出来て嬉しかった。特に、授業に参加できたことは得難い経験で、印象に残っています。日本のアニメについて研究をしているので、最新の状況を知ることができよかったです。

授業以外で嬉しかったのは、宿泊しているゲストハウスに、鶴見の男子学生が肉じゃがを作って持ってきてくれ、一緒に食事をしたり、花火を楽しんだことです。日本では公共図書館を朝から比較的年齢が高い多くの人々が利用していることに驚きました。台湾では、公共図書館の利用者は日本ほど多くないように感じました。

また、日本を訪れる機会があることを期待しています。

✿ ヤン ユールン：楊 祐 綸（同前列右から2人目）

日本では図書館が古い書籍を大切に保存していることがよくわかりました。鶴見大学図書館の2階層になった読書ルームは魅力的でした。

鶴見大学の学生と友人になれ、色々なところに案内してもらえ感謝しています。今度、来日するときまでに日本語をもっと話せるように勉強したいです。他の国の学生とともに学ぶことで多くのことを得ることができました。



塙保己一史料館での版木摺り体験



国立国会図書館にて



塙保己一史料館齋藤幸一理事長と記念撮影



精霊祭にて

✿ リャオ エンジェン：廖 彦 任（同後列中央）

最初、来日前はそれほど今回の研修に期待をしていませんでしたが、授業に参加して、鶴見大学のドキュメンテーション学科では学生全員がノートPCを使用したLAN教室での授業など、台湾の世新大学にはない環境が印象深かったです。

鶴見大学の卒業論文演習の授業では、自分の研究テーマと異なる研究テーマの紹介も多く興味深く参考になりました。

スーパーなどで買い物の支払い時にお金を支払うためのボックスなどがあり、台湾にはない、日本の習慣などが興味深く感じました。

研修生からの  
メッセージ

## 【計算機歴史博物館 [マウンテンビュー、カリフォルニア、アメリカ]】

Computer History Museum, Mountain View, CA, USA

ローカル鉄道 (Caltrain) のマウンテンビュー駅から、歩く人が殆どいないアメリカの歩道を 20 分ほど一直線に突き進むと、きれいな敷地に低層のビルが現れる。ここは、コンピュータの本場アメリカの、その中心部のひとつであるシリコンバレー近くにある、計算機の歴史をテーマとした博物館である。旅行者にとってアクセスは良くないが、車がないと暮らせないアメリカの中では便利な場所にある。

計算機は開発の歴史で、数多くの実験機が作られたが、その多くは役目を終えると解体されてきた。また、量産型のものであっても、使用期限が切れると、産業廃棄物として処理されたことから、歴史は浅くとも、計算機の実機はあまり残っていない。コンピュータを生んだ国だけあって、ここには多くの実機 (そして、動く !!) が展示されている。展示スペースは、巨大なものではないが、所狭しと展示されているので、見学する時間はそれなりにかかる。見学者は、子供、学生、大人まで、幅広い。これは他の博物館でも同じかもしれないが、面白いのは、中年男性が、子供よりも子供っぽくはしゃいでいる。子供から「うるさいなあ」という視線で見られている。こんな博物館は、見たことがない。かくいう自分も、何度も「おー」「おー!」「うーん」と声を出していたと思う。



PDP-1

数ある展示品の中から、今回の一品として紹介するのは、3 台の PC である。これは、左から、タンディーラジオシャック社の TRS-80、

コモドール社の PET、そして、アップル社の Mac II である。この 3 台は、1977 年に、パーソナルコンピュータの世界を切り開き、絶大な人気を博し、そして、名機であった。個人的なことといえば、中学生の時、この 3 台のカタログを毎日のように眺め、特に TRS-80 が欲しくて欲しくてたまらなかった。

旅行のガイドブックには載っていないかもしれない。また、アクセスも良いとはいえないが、訪問する価値はあると思う。ショップも充実している。(大矢一志)



計算機歴史博物館

3 台の PC である。これは、左から、タンディーラジオシャック社の TRS-80、

コモドール社の PET、そして、アップル社の Mac II である。この 3 台は、1977 年に、パーソナルコンピュータの世界を切り開き、絶大な人気を博し、そして、名機であった。個人的なことといえば、中学生の時、この 3 台のカタログを毎日のように眺め、特に TRS-80 が欲しくて欲しくてたまらなかった。



3つのPC

アクセス：Mountain View 駅から、約 2.5km。歩くと 20-30 分かかる。危険な道ではないが、心細くなるかもしれない。高速出口を渡るところが、唯一の注意ポイント。ちなみに、もう 1 ブロック歩き続けると、Google の本社がある。

開館時間：10:00-17:00 (月曜と火曜が休館日)

アドレス：Computer History Museum, 1401 N Shoreline Blvd., Mountain View, CA 94043, USA  
<http://www.computerhistory.org/>

## No.2

### 【グーテンベルク博物館 [マインツ、ドイツ]】

Gutenberg-Museum Mainz, Mainz, Deutschland/Germany

フランクフルトから地下鉄で約40分、マインツの駅がある。駅前の広場を抜けると、落ち着いた町並みがあり、街歩きが楽しい。博物館までは、メインストリートを通る簡単な道のりではあるけれども、ヨーロッパの町歩きに慣れていないと、不安になるかもしれない。空を見上げて目印を見つめることができないので、ストリート名を頼りに、ドーム（大聖堂）またはマルクト広場を目指す。ここは、映画館、デパート、露店が並ぶ、街一番の人が集まる場所で、この広場の一番奥にグーテンベルク博物館がある。

博物館の2Fには、金庫のような特別展示室があり、そこにグーテンベルクが初めて印刷したとされる『42行聖書』がある。

じっくりと眺めてみると、当時までの写本の様子をそのままに、印刷でそれを作ってしまった手間と技術には感心させられる。ところが、眺めれば眺めるほど、元の写本の素晴らしさに気が向いてしまう。グーテンベルク博物館には、印刷の歴史が、作られた本と共に紹介されているが、時代が下るにつれて、こざっぱりした本が作られるようになり、素人の自分には、それらは見ていて楽しくなかった。漆塗りの箸が、プラスチックの箸に変わっても、嬉しくないのと同様な感じを覚える。グーテンベルクの偉業を紹介する博物館であるのに、展示からは、それがストレートには伝わってこない。



ドーム（大聖堂、Mainz Cathedral）

今回の一品として紹介するのは、もちろん『42行聖書』であるが、写真撮影が禁止されているので、代わりにこのようなものを買ってきた。これは、ミュージアムショップで売っていた紙ナプキンである。

印刷に興味がある人は必見の博物館ではあるが、そうでもない人は、マインツの街歩きをした方がよいかも。隣にあるミュージアムショップは、狭いものの、扱っている商品は面白いものが多い。（大矢一志）



グーテンベルク博物館

展示スペースは広くはないが、書籍という、展示物が小さいので、細かく見るとそれなりに時間がかかる。但し、英語の解説を読まずに、通り過ぎるくらいであれば、あっという間に終わってしまうかもしれない。

今回の一品として紹介するのは、もち



42行聖書（紙ナプキン）

アクセス：Mainz 駅から、約1km。歩いて10-15分くらい。ちなみに、博物館の裏手には細い路地の商店街があり、面白い。

開館時間：9:00-17:00（火曜 - 土曜） 11:00-17:00（日曜） 月曜と各種記念日は休館。

アドレス：Gutenberg Museum, Liebfrauenplatz 5, 55116 Mainz, Germany

<http://www.gutenberg-museum.de/>

## 教育実習を終えて

6月上旬、情報科教員免許取得のため、5名の4年生が教育実習に赴きました。ご協力下さいました実習校の皆様  
に、厚く御礼申し上げます。

私立鶴見大学附属中学校・高等学校 大平実花・鈴木あすか 私立花巻東高等学校 鹿川大翔  
横須賀市立横須賀総合高等学校 須賀しおり 神奈川県立白山高等学校 鈴木聖士  
実習生には終了後、アンケートに答えてもらいました。教職課程を履修している皆さん、ぜひ参考にしてみてください。

### Q1 教壇に立った時の気持ちは？

- ・最初は緊張しましたが、2回目からは楽しくのびのびとした気持ちで臨めました。(大)
- ・当たり前かもしれませんが、生徒の視線が集まってきたなということです。「先生なんだな」と感じました。(鹿)
- ・最初は緊張しましたが、次第に慣れ、失敗は繰り返さない、要点をまとめて話す、と意気込んで臨みました。(須)
- ・話を聞いてもらえるか、また自分の説明で理解してもらえるか、とても不安でした。(あ)
- ・やはり緊張しましたが、PCの画面を見せながらの授業だったので、ややリラックスして行えました。(聖)

### Q2 生徒の皆さんと一緒に過ごした感想は？

- ・私が想像していたよりも元気いっぱい、また勉強にも誠実に取り組んでいました。(大)
- ・地元の岩手の学校で、すごく素直な子が多い気がしました。生徒から話しかけてきてくれて、実習がやりやすかったです。(鹿)
- ・日常生活や授業、部活で、見せる顔が全然違いました。自分もそうだったなと思いつつも、新鮮でした。(須)
- ・わずかな時間しか過ごしていないのに、慕ってくれる生徒もいて、とてもうれしく、離れがたかったです。(あ)
- ・事前の模擬授業とは全く違うリアクションで、楽しかったのと同時に、勉強にもなりました。(聖)

### Q3 今回の実習で、いちばん身についたことは？

- ・限られた授業時間の中で、生徒に教えるべきことを教えるということです。(大)
- ・授業をするにあたってのスキルが一番身につきました。授業の内容はもちろんですが、教員として生徒を指導する立ち居振る舞いが身についたと思います。(鹿)
- ・時間配分と調整力です。どこに時間を割り、どこを短縮し、どう要点をまとめて伝えるかなどについて、生徒の速度を加味して考えることです。(須)
- ・一つのことにと拘らず臨機応変に気持ちを切り換えていくことです。(あ)
- ・自分では完璧だと思っていた教科の知識が、授業のために研究することで、より深まったように感じます。(聖)

### Q4 その他、実習を通じて気づいたことは？

- ・素の自分で接しないと、生徒たちも心を開いてくれない、ということです。(大)
- ・授業の中で、生徒がわかり、学び取れるのが重要だということと、生徒のレベルに合わせて授業を展開することが大切だ、ということです。(鹿)
- ・重要なものをいかに選び、短い時間でいかに要点をまとめて説明できるかという、授業の時間配分や調整・構成の仕方です。(須)
- ・生徒に理解してもらうために、身ぶり手ぶりなど、とにかく全身を使って授業をする、ということです。(あ)
- ・聞く人間の立場になって話そう、ということです。略語や擬声語を交えた説明は、生徒に伝わりづらいです。(聖)

着任  
挨拶

## 文献を知り活用する方法を学ぶ

—着任のごあいさつをかねて—

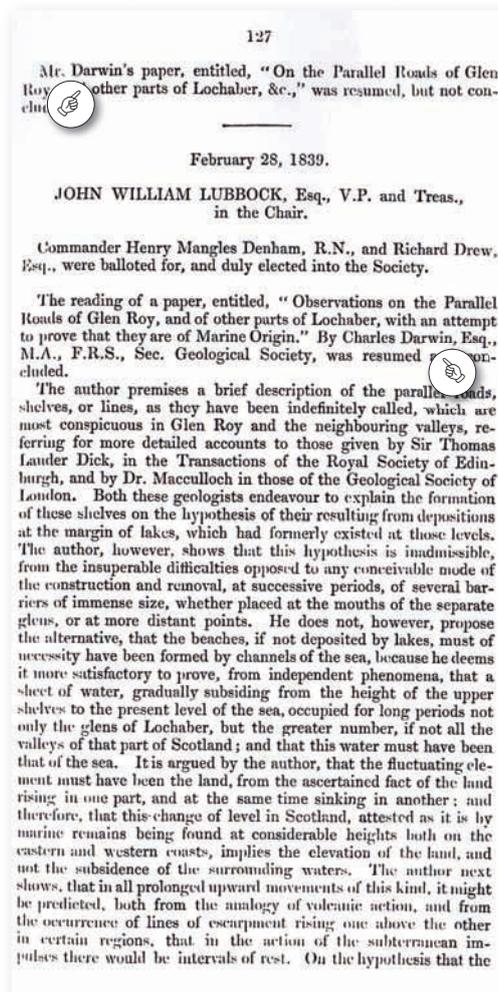
角田 裕之 Hiroyuki Tsunoda

本年度、ドキュメンテーション学科に教授として着任した角田裕之です。図書館学コースで、書籍、雑誌、新聞などの資料とそこに記述されている文献に関する授業や、図書館の専門職である司書資格に関する授業などを担当しています。以前、書店に勤務し書籍や雑誌の流通に携わり図書館を訪問し、専門書などの学術書を大学図書館や先生方に案内していました。大学からは最新で高度な学術知識を日常的に求められ、これに応えるには専門家の指導を受けた方が早いと考え大学院に入学しました。丁度その頃、大学にインターネット環境が整備され、文部科学省がインターネットを活用した授業改善を検討していました。そこで、政策学の修士課程で遠隔授業の改善方法を研究しました。次に、インターネットのデータベースを活用するため、図書館学の博士課程で文献の分析方法を研究しました。その後、大学の教員に採用され、縁あって鶴見大学に参りました。

専門は図書館情報学の計量書誌学です。本学科では図書館学コースに所属し、情報学コースと書誌学コースが重なる領域を図書館学の観点から調査・研究しています。

文献を調査することでどんなことがわかるのでしょうか。例えば、鶴見大学図書館が所蔵する1843年刊『ロンドン王立協会誌論文抄録』第4巻127頁に、右の文献が掲載されています。この文献からわかることを検討します。ロンドン王立協会誌は世界で最も古い学術雑誌のひとつで、ニュートンを初めとして、多くの有名な科学者の論文が掲載されています。右はその雑誌に掲載された論文のひとつを要約した文献です。最初の行は Mr. Darwin's paper から始まります。paper は紙でなく、論文を意味しますので、ダーウィンの論文となります。ダーウィンとは誰でしょうか。少し下の行に By Charles Darwin, Esq., とありますので、ダーウィンとは『種の起源』を執筆し進化論を提唱した科学者チャールズ・ダーウィンだとわかります。ここからが重要です。なぜ、200年程前に抄録が刊行されたのでしょうか。抄録は原論文より活字の数が少なく、短時間で多くの論文を知ることができます。現代のように科学技術が発達し多数の論文が発表される時代程、抄録の必要性は高まります。しかしながら、ダーウィンなどの有名な科学者が著した論文でさえ抄録の需要があったことから、当時の英国でも多数の論文が発表されていたと推察できます。このようにひとつの文献を調査することで、その時代の科学や科学者の状況がわかります。

授業では文献を調査する方法やそこからわかること、文献を要約する技術についても取り上げます。みなさんと一緒に様々なことを解き明かしていきましょう。



『ロンドン王立協会誌論文抄録』

雑誌名 Abstracts of the papers printed in the philosophical transactions of the Royal Society of London

巻(年) 1 (1800)-4 (1843)

出版地 London

出版者 Royal Society of London

出版年 1800-1843

配架場所 鶴見大学図書館 2階 開架

該当頁 第4巻 本文127頁

# 学生の声

## 忘れられない経験 — MOS 試験合格体験記—



萩原 千代恵  
Chiyo Hagiwara

私は昨年、Microsoft Office Specialist 試験に合格し、MOS Master (Microsoft Office Specialist Master) になりました。2年生の前期の情報基礎演習Ⅱ (アプリケーション) で、Excel2007 についての講義を受けたことがきっかけで、試験に挑戦してみようと思いました。8月11日までに MOS 試験に合格すると成績に加味されるということで、その日为目标に勉強することにしました。授業はわかりやすく、質問もしやすい環境でした。担当教員以外にも教えて下さる実習技術員がいらっしやり、とても助かりました。

試験には『攻略問題集 Excel2007』(日経 BP 社) と、『よくわかるマスター Microsoft Office Excel 2007 完全マスターⅡ 模擬問題集』(FOM 出版) に付属する CD 問題集を使って臨みました。両方勉強してみましたが、どちらか一つでも十分かもしれません。オススメは、授業のテキストで使用した『攻略問題集 Excel2007』です。後者と比べて模擬テストの問題量が多く、使用しやすく感じました。問題集の答えを見ながら問題を解き、覚えて、テストをしてということを繰り返しました。間違えた問題を何度も解き、覚えにくい問題文と答えは合わせてノートに書き込みました。試験1週間前には、練習問題で「900点以上をとるまで寝ない」と決め、実行しました。その甲斐もあり、ほとんどの練習問題で1000点を取ることが出来るようになりました。

Excel2007の本試験の結果は、1000点中1000点満点。試験が終わると直ぐに採点され結果が出るので本当に驚き、この経験は生涯忘れられない思い出になりました。

Excel2007を受験したあと、MOSの公式HPを見て、MOS Masterという存在を知りました。MOS Masterというのは、Excel2007、Word2007、Power Point2007を合格し、Access2007または、Out look2007のどちらかを合格すれば、称号を頂くことができるというものです。実は同じ時期、私の幼なじみの友人もMOS試験を受験していました。彼女が、MOS Masterを取得するかどうか迷っていたところ「私もやるから頑張ろう」と声を掛け、一緒に挑戦することになりました。友人が同じ時期に受験することでお互い勉強の進捗を報告しあえるので、モチベーションにつながりました。夏季休暇中にExcel2007、Word2007、PowerPoint2007を取得した後、12月にAccess2007に合格しMOS Masterになることができました。友人も同じ12月にMOS Masterになりました。

MOSの資格を通して、私のようなパソコンが苦手な人でも、努力すれば良い結果が得られるということを学びました。これからもその経験を活かし色々な事に役立て、挑戦していきたいと思います。

※活動報告の詳細は学科ブログ (<http://blog.tsurumi-u.ac.jp/doc/>) でご覧になれます。

- 「ドキュメンテーション」第14号をお届けします。
- 台湾・世新大学からの研修生のドキュメンテーション学科での研修を紹介します。
- 今号より新連載「三館巡礼」がはじまります。毎号学会員が訪れた日本、海外各地の図書館、美術館、文書館、博物館等を紹介して行きます。

ドキュメンテーション 第14号  
平成24(2012)年8月4日(土)  
鶴見大学文学部ドキュメンテーション学会  
横浜市鶴見区鶴見2-1-3 (〒230-8501)  
☎ 045(581)1001 発行責任者: 原田 智子  
学科ホームページ: <http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/docu/>